

私は笠岡市北部の農村で育ったが、実家はなぜかロシアと因縁が深い。祖父は日露戦争の奉天会戦に参戦した。第2次世界大戦末期関東軍にいた父は、旧満州に侵攻したソ連軍の捕虜になり、5年間シベリアに抑留された。私も通信社でロシアなどを担当し、8年間モスクワに勤務した。

作家の司馬遼太郎は「明治以降の日本の近代史はロシアとの勢力圏争いであり、両国関係が緊張するたびに庶民が打撃を受けた」と書いたが、20世紀前半、両国は日露戦争、日本のシベリア出兵、ノモンハン事件、ソ連軍の対日参戦と計4回戦争をしている。海洋国家と大陸国家の地政学的争いでもあった。

ソ連は第2次大戦で約2700万人の犠牲を払いながら、戦争目的を達成した国であり、ロシアと戦争するのは愚の骨頂と言える。

安倍晋三首相が言うように、「戦後70年間、日口間に平和条約がないのは異

拓殖大海外事情研究所教授

名越 健郎



山陽時評

なごし・けんろう 1953年笠岡市生まれ。東京外国語大卒。時事通信社に入社し、バンコク、モスクワ、ワシントン支局、外信部長などを経て現職。国際教養大特任教授も務める。著書に「独裁者プーチン」(文春新書)など。

ロシアとの北方領土交渉

常」であり、安全保障のためにも早期締結が望ま

基づくアプローチで交渉を進めることで一致した」「突破口を開く手ごたえを得た」などと述べた。

同土気質が合う。大統領にとって、人権問題を追及しない首相は西側で最も話しやすい相手だろう。

安倍首相の言う「新しいアプローチ」の本身は不明だが、最終的には国後島の扱いが焦点になるような気がする。最大の択捉島には軍事基地があり、産業化も進んでロシアが返還する可能性はほとんどない。

「国後島」で攻防か

い。

日口間では経済関係や安保協力が進み、平和条約の障害は国境線の問題だけだ。北方領土問題が解決すれば、すくなくとも平和条約締結が可能だが、過去70年間、北方領土は一島も返還されなかった。

頼みの中国もロシアに冷淡だ。「弱いロシア」になると、日本にすり寄るジンクスがある。

今年9月に下院選を控え、生活苦への国民の不満が高まるだけに、プーチン政権は支持基盤である保守層の反発を避けようとするだろう。

歯舞、色丹、国後はサハリン州南クリル地区に属し、択捉とは行政区画が異なる。国後には北海道の目と鼻の先にあり、安全保障上も国後が占拠されることは好ましくない。

安倍首相は今年6月6日、ロシアのソチを訪れ、プーチン大統領と会談した。首相は会談後、「新たな発想に

領土問題は政治問題であり、結局は両首脳の間で決着せざるを得ない。過去13回会談した両首脳は保守派

大統領は1956年の日ソ共同宣言が規定した歯舞、色丹の2島引き渡しについて履行の用意があると

日口両国の専門家の大半が決着は困難とみており、これで合意すれば、専門家は「参りました」といふことになる。サントリー社のように、

「戦後70年間、日口間に平和条約がないのは異

領土問題は政治問題であり、結局は両首脳の間で決着せざるを得ない。過去13回会談した両首脳は保守派

大統領は1956年の日ソ共同宣言が規定した歯舞、色丹の2島引き渡しについて履行の用意があると

日口両国の専門家の大半が決着は困難とみており、これで合意すれば、専門家は「参りました」といふことになる。サントリー社のように、